

か かつどうぼうこう
過活動膀胱について



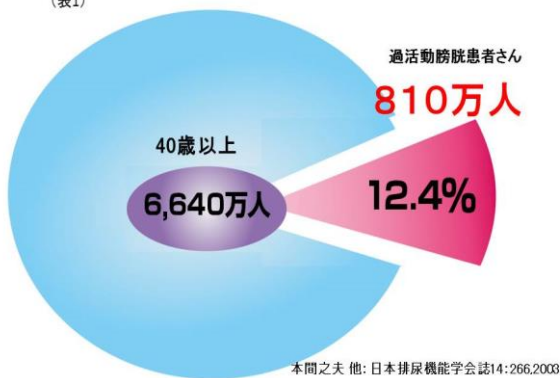
泌尿器科 佐竹 直哉

過活動膀胱は近年、世界的に使用されるようになった新しい病名です。自分の意思とは関係なく膀胱が収縮してしまうことにより、尿が近い（頻尿）、夜トイレに行く回数が増える（夜間頻尿）や尿の我慢がきかなくなる（尿意切迫感）などのあらゆる症状を引き起こします。また、症状が重い患者さんでは、尿失禁や夜間頻尿による睡眠不足や夜間の転倒など生活の質を著しくおとすことも稀ではありません。英語では、OAB (overactive bladder)といわれています。

2002年に施行された調査結果では、日本人において40歳以上の方の8人に1人が過活動膀胱症状を有しており、日本には約810万人の過活動膀胱患者さんがいるといわれています（表1）。

また、過活動膀胱の患者さんは加齢に伴い増加していることもわかっています（表2）。

(表1)



(表2)



泌尿器科の外来でも、年々過活動膀胱の症状で受診される患者さんが増加しております。日常診療において、過活動膀胱が疑われる場合、過活動膀胱スコアという問診票に沿って診察を進めます（表3）。

表 3

質問	症状	頻度	点数
1	朝起きた時から寝るまでに、何回くらい尿をしましたか	7回以下	0
		8～14回	1
		15回以上	2
2	夜寝てから朝起きるまでに、何回くらい尿をするために起きましたか	0回	0
		1回	1
		2回	2
		3回以上	3
3	急に尿がしたくなり、我慢が難しいことがありましたか	無し	0
		週に1回より少ない	1
		週に1回以上	2
		1日1回くらい	3
		1日2～4回	4
		1日5回以上	5
4	急に尿がしたくなり、我慢できずに尿を漏らしたことがありましたか	無し	0
		週に1回より少ない	1
		週に1回以上	2
		1日1回くらい	3
		1日2～4回	4
		1日5回以上	5

OABの診断基準：質問3が2点以上、かつ全体のスコアが3点以上

過活動膀胱の患者さんの多くは、適切な治療を受けることによって症状の改善が十分に期待できます。

しかし、過活動膀胱の症状を有していて医療機関を受診している患者さんの割合は20%程度だとも言われています。その理由としては、日常生活において困るほどの症状ではないという患者さんから、「年を取っていれば当然。」「病気だとは思わなかった。」「恥ずかしい。」などが挙げられます。

しかし尿が近いという症状は時折、排尿障害（前立腺肥大症、神経因性膀胱など）、尿路悪性疾患や尿路結石症などの病気の症状として現れることもあるので、このような尿の症状を持っている方は一度泌尿器科専門医師による診察をお勧めします。

【泌尿器科外来担当医一覧（平成28年2月）】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	佐竹	田中	佐竹	徳山	澤田
午後	佐竹	-	佐竹/澤田	-	澤田

電話予約センター 03-3446-8331